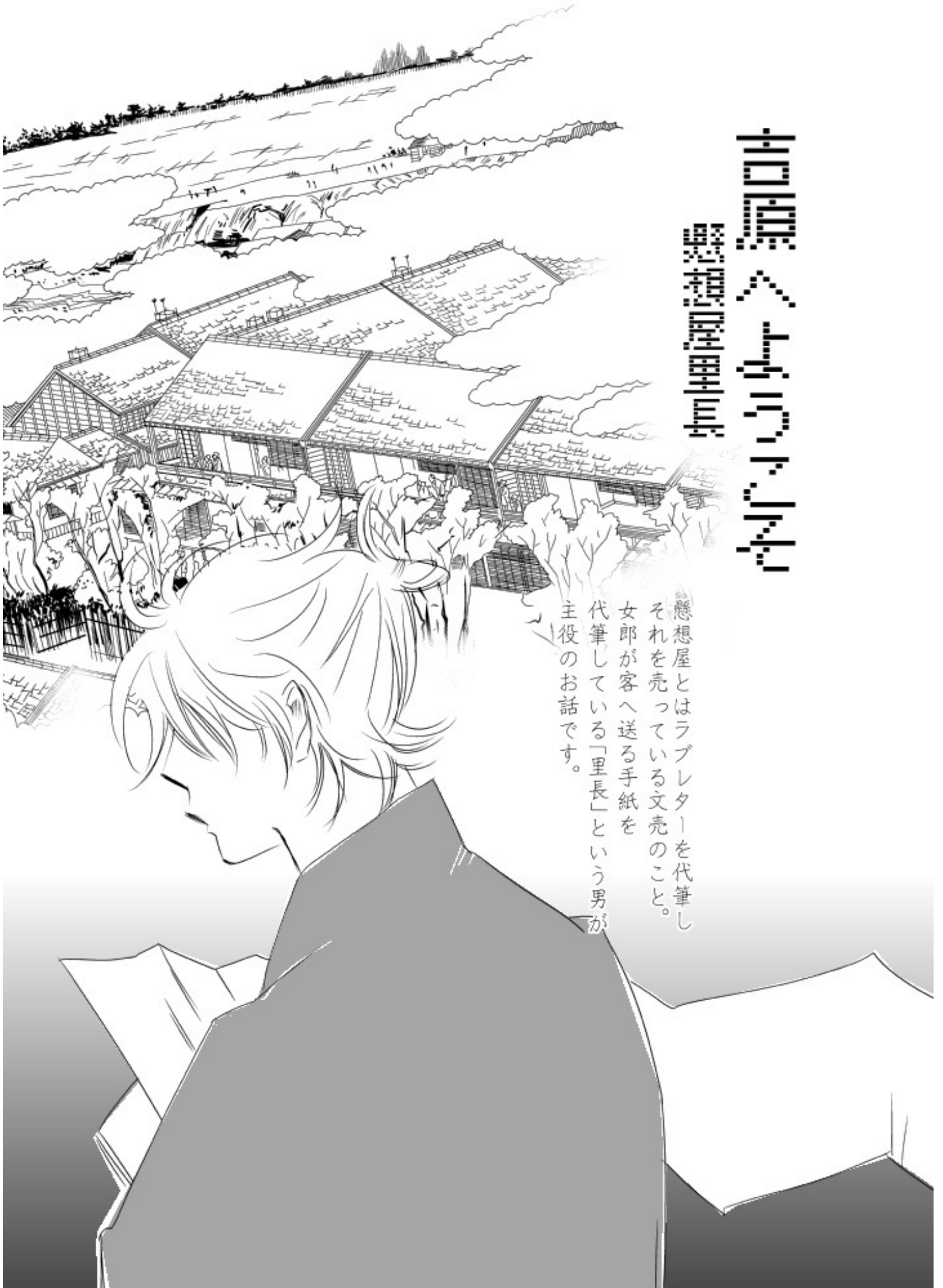


恋想屋と文売

恋想屋と文売

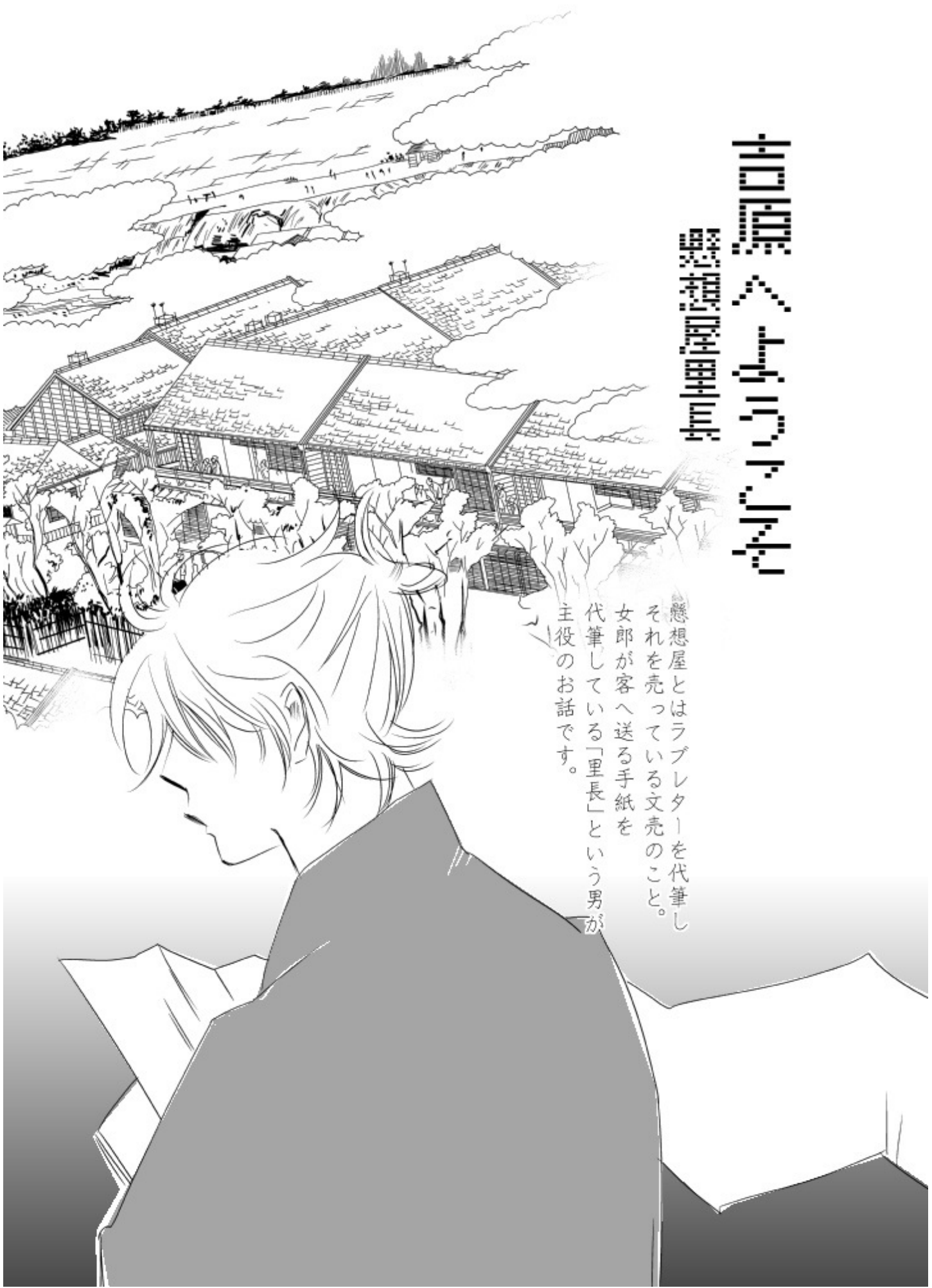
戀想屋とはラブレターを代筆し
それを売っている文売のこと。
女郎が客へ送る手紙を
代筆している「里長」という男が
主役のお話です。



恋想屋と文房具屋

恋想屋と文房具屋

戀想屋とはラブレターを代筆し
それを売っている文房具屋のこと。
女郎が客へ送る手紙を
代筆している「里長」という男が
主役のお話です。





江戸 吉原

営業終了は
午後十時頃



客がつかない女は
一日の稼ぎもなく
一人で寝床に
どろ

あーあ
暇で
しかたねえ
わな

いつも
だろう



はあ

夜は長えぜ
里長

テメエの
手紙も
ききやしねえ

なじみは
来なかったよ

ううん

そう
言われると
俺も形無し
だなあ

まあ
いーさ
一人でのうーと
寝よう

じゃあ
一つ

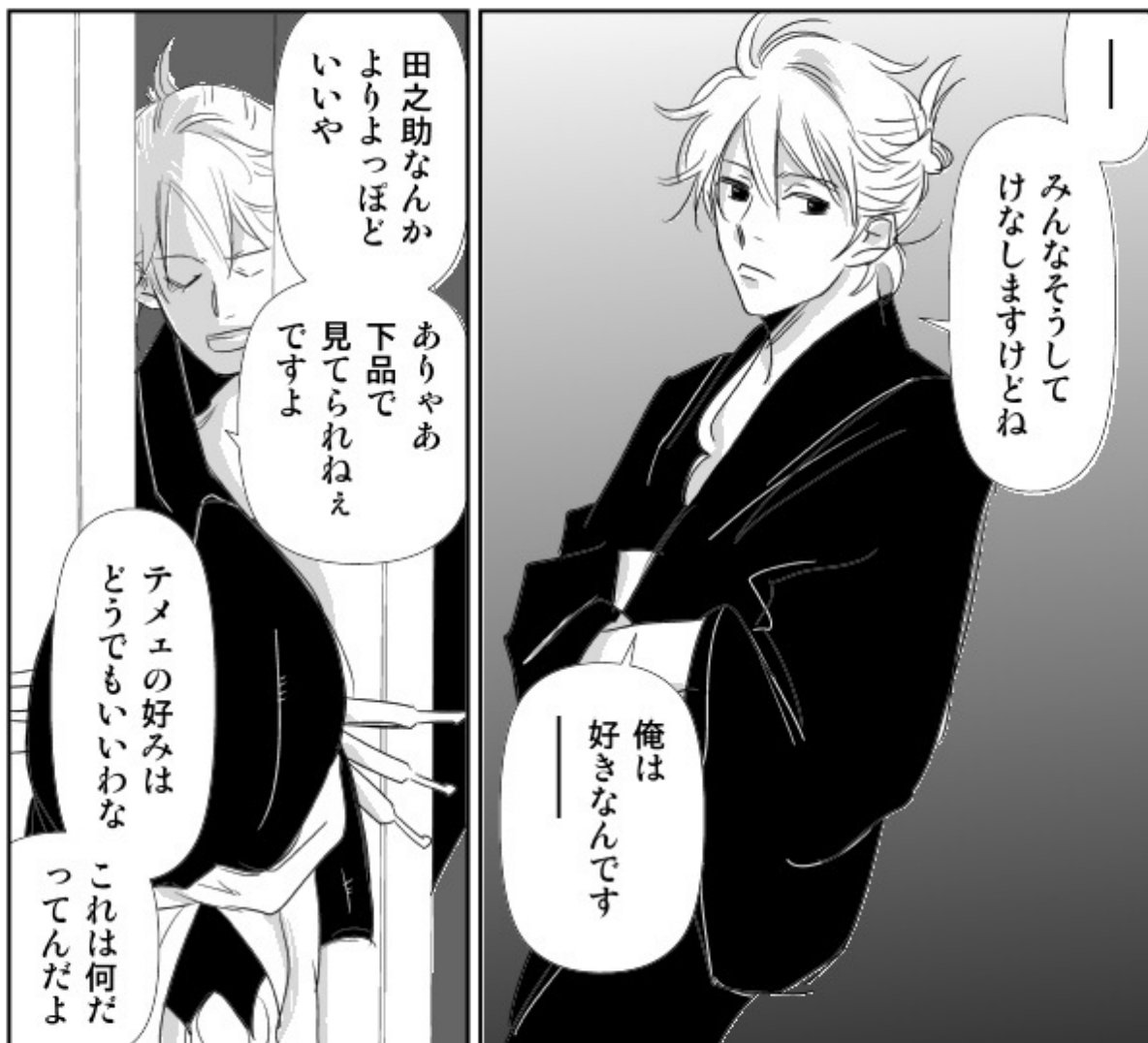
ネタに
なる
お手紙を


ここに
一人の恋文代筆屋

通称
懸想屋里長といふ









吉原で一番の
花魁・揚巻は

助六という男を
愛しぬき
彼をささえる

張り意気地の
総本山
権力や金なんて
クソクソエ

ただ一人の男のために

あゝ
だの、助六さん

すべてが終わった後には
揚巻の元に戻ってきて

「甘える」と
言っ



それ以上に

揚巻は

助六さんご

ほめて〜

ほめて



ほめて

ほめて



ほめ…

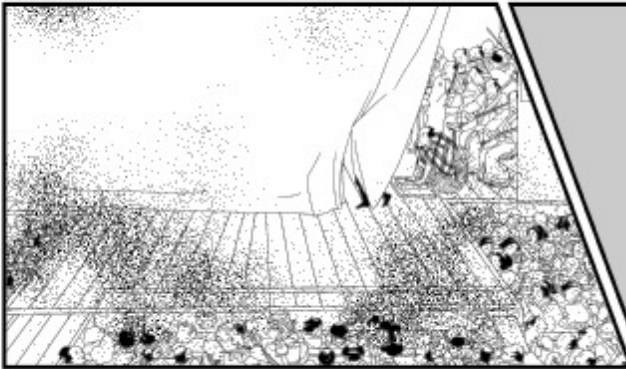
って

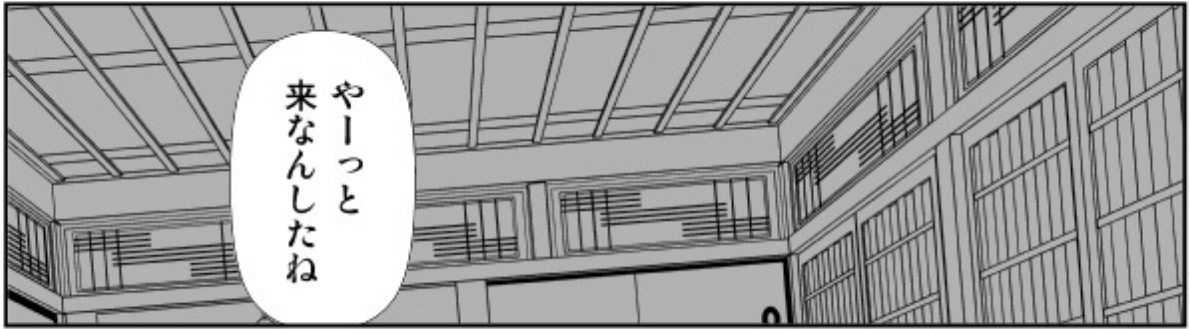
何回

繰り返すんだヨ

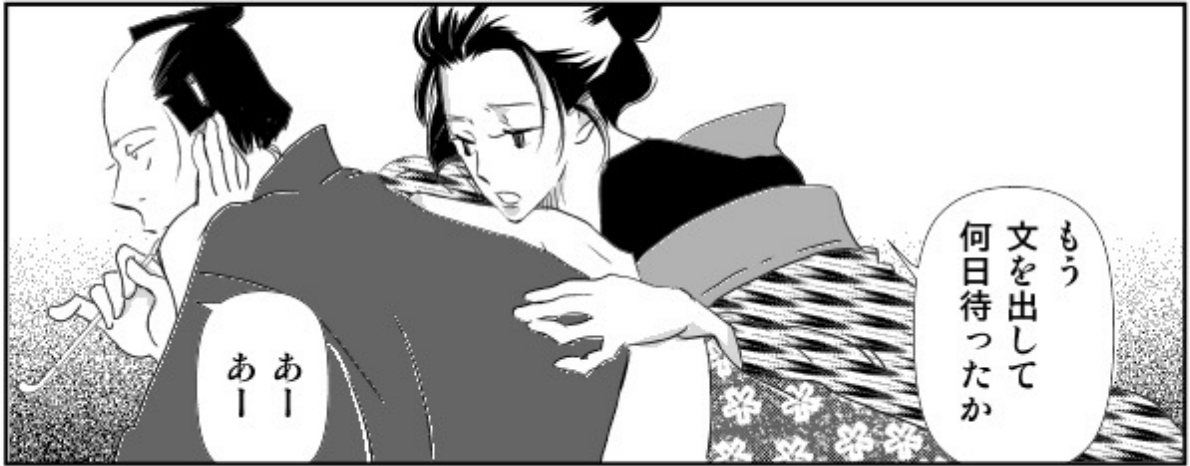
ほめて
あげるから







やーっと
来なんしたね



もう
文を出して
何日待ったか

あー
あー



メロ／＼な
若旦那に
ついてさ

こつちも
毎日
気が詰まって
ならねえんだ



うるせえな

こつちは
朝から晩まで
小屋につめて
るんだからよお



今日なんて
ついに
逃げ出すのかと
ヒヤ／＼
したぜ

権十郎が？

ソウサ





差し出しは
この吉原からと
いうことで

権十郎を
励ますことは
できない
だろうか



こんなものを
書いてね



懸想屋が大の
権十郎の最良で

きっとこうして
ほしかったに
違いないよ



揚巻からの
手紙——？



ふふ♡

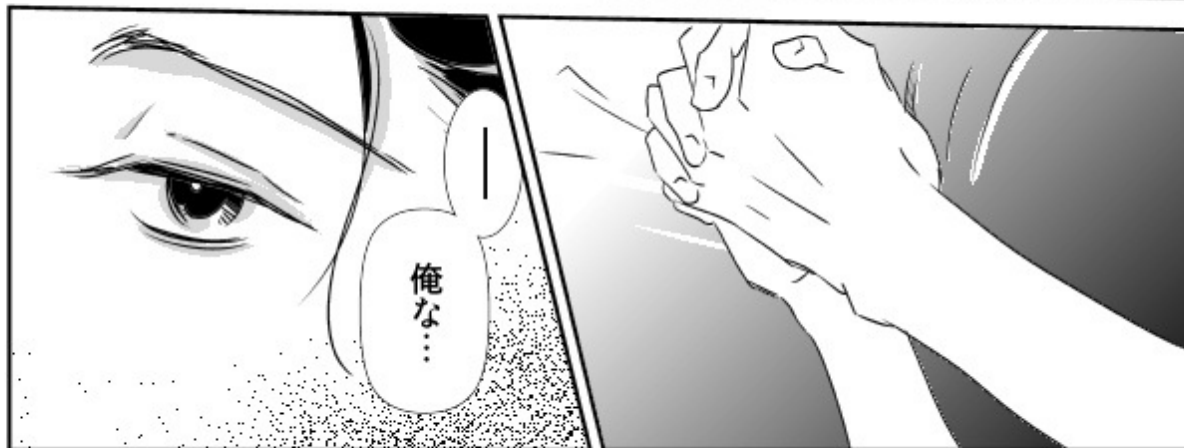
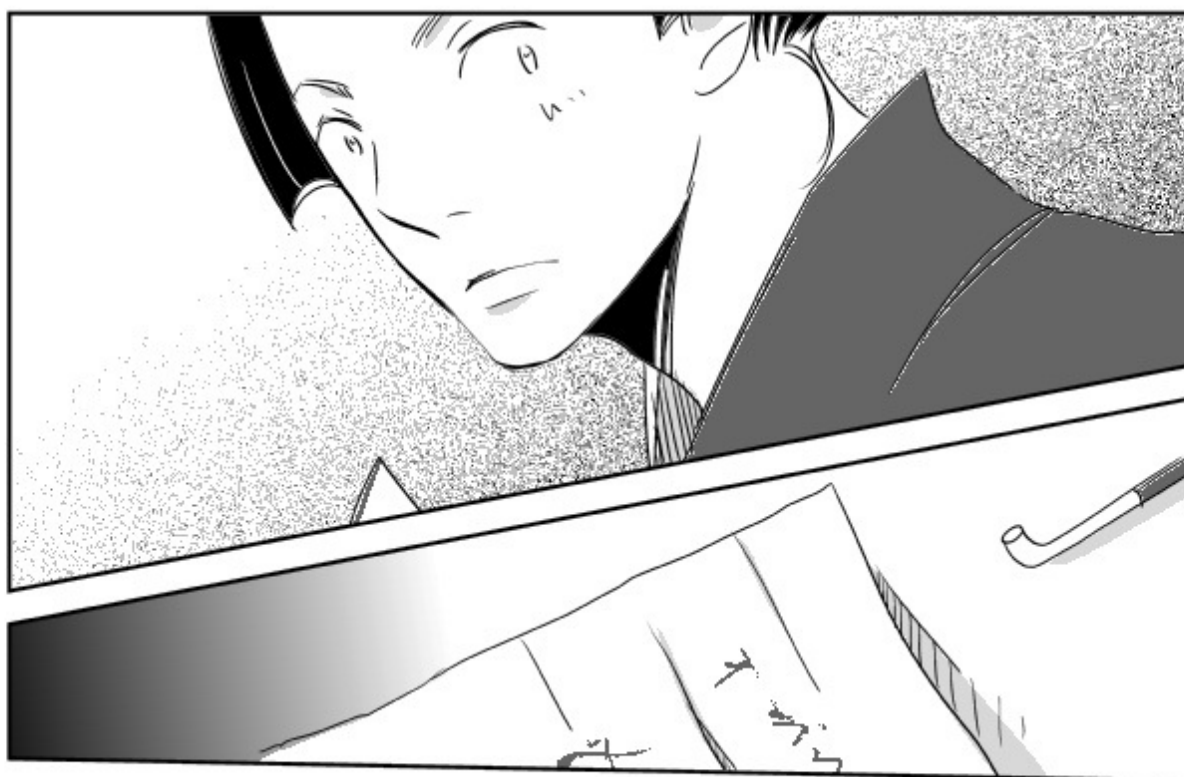
何？



てえした腕だね

これなら
きっと旦那も
元気に

へー





若旦那は
いつかスゲエ
役者になるって
信じてんだ

将来
親父様の
名前を継ぐ
お方だ



市川團十郎って
いう器にな

だんじゅうろう？



まだみんな
あの器にや

気付いちや
いねえんだ



そーだ
成田屋
だよ！



その大きな目が

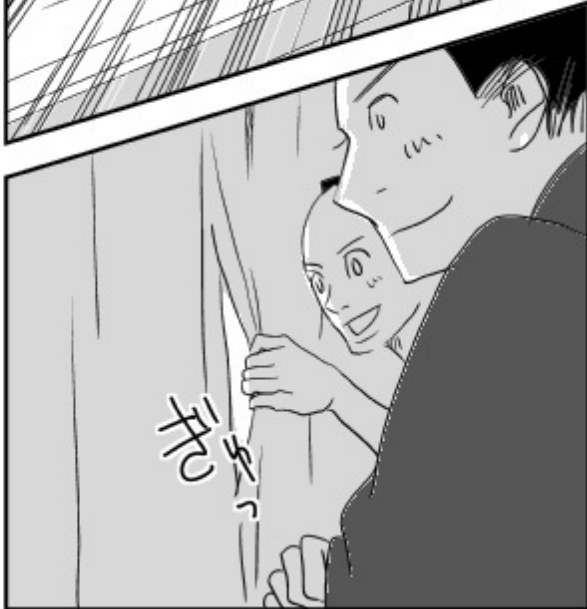


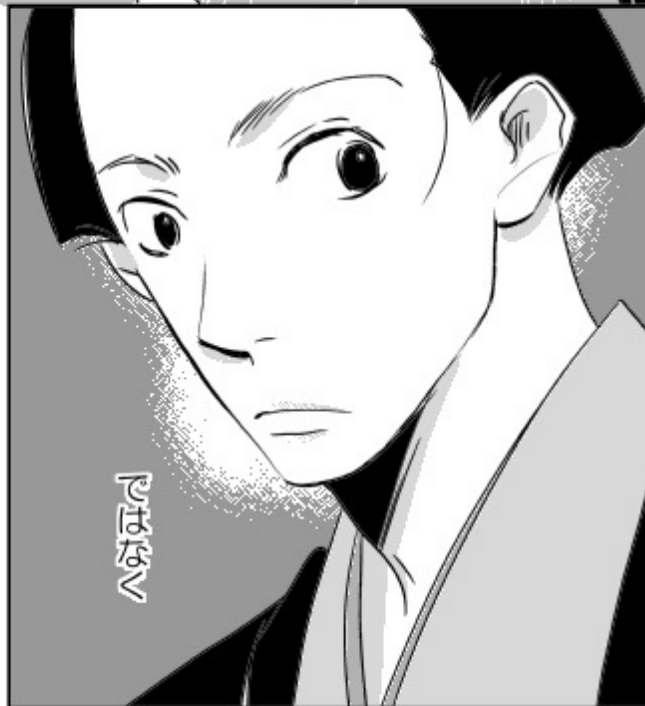
その大きな目が

落ちるが
ごとく



落ちるが
ごとく



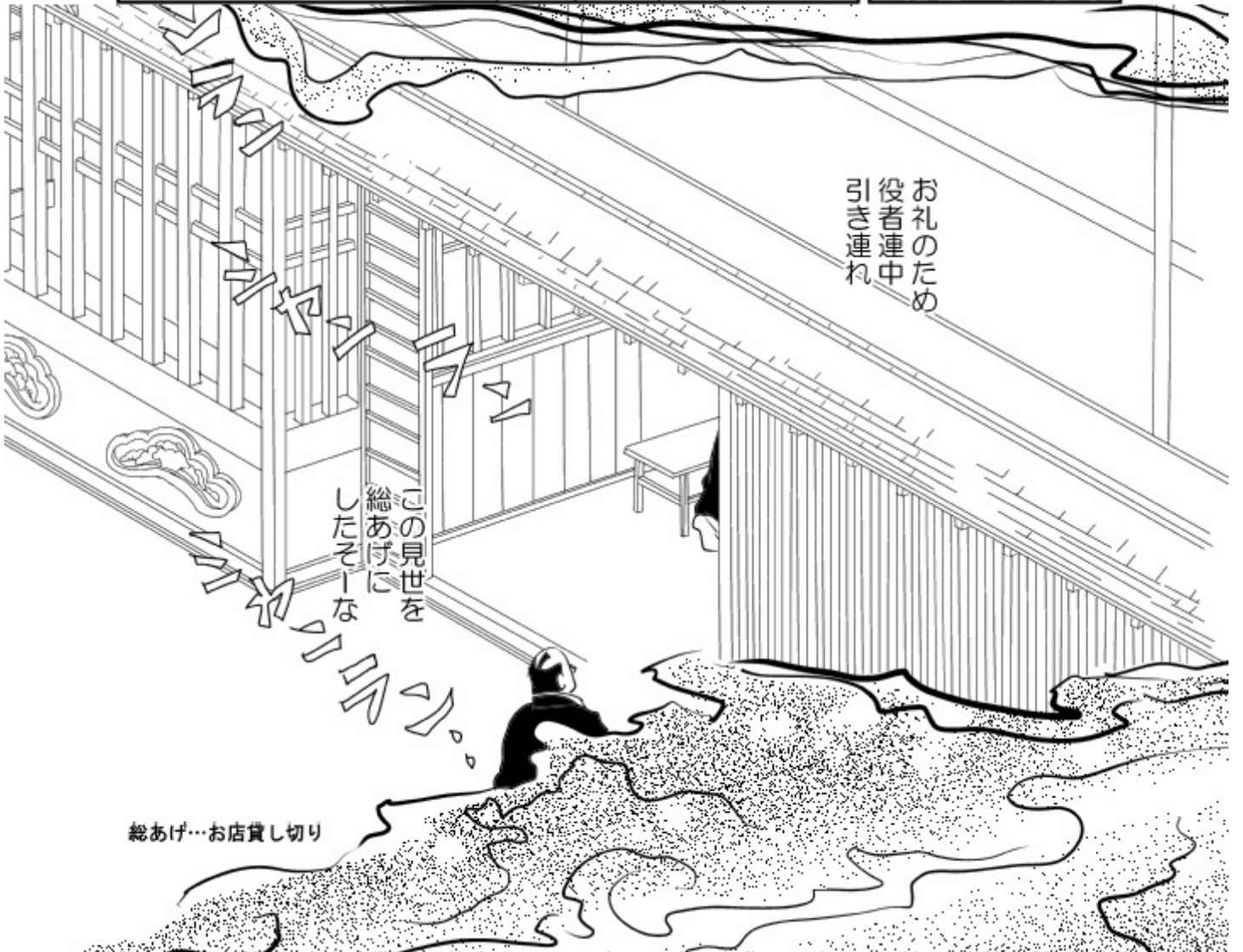




なりたやあ



あ



お礼のため
役者連中
引き連れ

この見世を
総あげに
したそーな

総あげ…お店貸し切り